

目的 運針の運動方式と作業動作の習熟過程を研究した報告は多く見受けられ、主に筋電図分析によるバイオメカニクスの解析，映画撮影による運動方式の解明，縫製能率を上げるための母指長と縫目からの解析等多面的な研究が進められている。またフリツカー値による眼の疲労の研究も散見されるが本報では運針時の眼球運動をオフサルモグラフィにより測定した。運針時における被検者の注視点，停留点を観察し眼球運動の軌跡を検討した。さらに筋電図解析を行つた。

方法 眼球運動の観察には、ナツク社製のアイマークレコーダーを使用し、被検者4名の運針時の眼球運動の軌跡をVTRにより記録した。同時にME-175E型脳波計を使用して表面電極法により、上腕二頭筋，上腕三頭筋，前腕屈筋群，前腕伸筋群の筋電図記録を行つた。試験布は平織白布3種類で布別，重ね枚数別，視距離別実験を行つた。

結果 オフサルモグラフィによる眼球運動は被検者4名中2名は布を保持している左母指先附近を，他は針を貫通している右母指先附近を，他1名は左右両手間隔の中間附近を注視して行つていた。布別，重ね枚数別，視距離別では筋電図，動作分析の結果、絹の4枚縫合時が最も筋放電量が高く、視距離は20cmの時上肢諸筋の振幅が最大であつた。両指先の動作も不規則で複雑な軌跡を描き、動作に一貫性がなく指先の動きも小であつた。